
へみちーちー

USAVICH

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

へみちーちー

【コード】

N96960

【作者名】

USAVICH

【あらすじ】

誤って毒きのこを食べてしまった妹を救うべく

伝説の薬の原料『へみちーちー』を探して旅にでるシユン。

旅の最中出会う仲間たち。シユンたちをつけ狙う闇の組織があるとかないとか。

登場人物紹介（前書き）

暇だったから書いてみました。

絵下手クソだけとおれの頭のなかでは

たぶんキャラはこんな感じかな、とフィーリングでかいたので
さらっとながしてください。

登場人物紹介

> i15087 — 2060 <

シユン

主人公。誤って毒キノコを妹に食わせ、もともにもどすために旅にでる。

旅の途中で拾った呪いのネギを手に戦う。

> i15091 — 2060 <

シービー

主人公の妹。毒キノコを食べ瀕死。それ以外には特にならない。

> i15085 — 2060 <

リユーヘー

悪の組織がシユンに送り込んだ刺客の隠密。その正体はただの引きこもり。

> i15086 — 2060 <

コーキー

腕のたつ錬金術師。錬金術を使うと全裸になってしまったため、裸の錬金術師として気持ち悪がられている。

> i15089 — 2060 <

イペーコフ

史上最悪の凶悪犯。それだけ。

> i15088 — 2060 <

ドンコルレマユカ

表向きにはチロリン中央都市の病院の院長。

裏では薬を密売したり、多額の医療費を請求するチロリアンマフィアのボス。

> i 1 5 0 9 0 — 2 0 6 0 <

Dr. IMAI

マユカの病院で働く医者。患者を実験台にさまざまな研究を行う悪い博士。

登場人物紹介（後書き）

本編もこれからちゃんとかいていくつもりで
がんばりたいとおもいます）。・、・。・。
（ノ

一章 諸悪の根源は自分（前書き）

チロリ村に住むシユンは森でおいしそうなきのこを見つけ、持ち帰った。

はたしてその味とは。

冒険ものの人気にあやかりたかった。それだけです。

一章 諸悪の根源は自分

おれは薪を集めに森に来ていた。あとあわよくば

今日の晩飯のおかずになりそうな山菜やらも見つけられればたいしたもんだ。

薪をひろいつつ森を散策していると早速食べられそうな物を発見した。

キノコだった。それは森の中に一本だけ生えていた。

赤い色で白い斑点がついていておいしそうだった。

おれはキノコすきなんだ。早速引っこ抜いてうちへ帰った。

おれの住むチロリ村は小さいが良い所だ。

小鳥が楽しそうにさえずり、花畑には蝶が舞っている。

時折吹く風は木々を優しく揺らし、小さな小川の水面に反射した日の光が眩しい。

チロリ村の描写はこんなもんでいいだろ。

「ただいまー」

薪を拾ってきすぎたようだ。腰がいたい。

「シユン、薪を拾うのに地球の裏側までいったの？さぞかし上等な薪なんだろうね」

シユンとおれのことだ。ちなみにこいつはシイビイ。妹だ。

「ああ、わかったからそんなに興奮するなって。カフェインの浣腸でもしたのか？はは」

皮肉には冗談で返すのが一番だと思っていたがどうやら勘違いのようだった。

スペツナズナイフの刃が飛んできたからだ。冗談が通じない奴だ。

「わかった！わかったから！おれだってただ薪を拾ってわけじゃない。い。

ほら。みてみる、食糧も調達してきたんだぜ」

おれは例のキノコを見せつけた。

「ほらみてみる、この赤い色とか白い斑点とか食欲をそそるだろう。今日はこれでスープだな」

「なにこの斑点。見るからに毒々しいけどほんとに食べられるの？」

シイビイは怪訝な顔で疑ってくる。

「何いってんだお前、知らないのか？お前、これ、あれだぞ？めっちゃくちゃ珍しい高級キノコだぞ。」

ほんとは知らないけど……。

「そうなんだ、じゃあさっそく食べよう。」

早速そのキノコでスープを作った。

そのキノコは煮ると割と普通っぽい色に戻った。どうやら大丈夫そう
うだ。

「いただきまーす」

……でもちよつと心配だからシイビィが食べてから食べよう。

……

ボタン！凹

……やっちまった。

「おい、シイビィ、大丈夫か？おい」

揺すつたが全く反応がない。まじか。様子を見て正解だったな。

……じゃない！なんとかしないと！

そつだ！困った時は長老だ！

.....

「.....ふむ。」

長老は自分のめちやくちや長いあごひげを摩った。

「長老、シィビィはどうなんですか!？」

「シユン、お前さんの拾ってきたキノコ。それは毒キノコじゃよ。これを食べた者はこのように仮死状態になる。まだ死んではおらんが、治療法も見つかってはおらん」

「そんな、長老、なんとかありませんか！」

おれは長老のあごひげにすがりついた。

「痛っ、……たしか隣町に錬金術師のユーキーという男がいる。そいつならもしや治せるやもしれん」

隣町なら頑張れば一日でつく。すぐに出発だ。

こうしておれの旅ははじまった。

まずは裸の錬金術師ユーキーに会いに。

一章 諸悪の根源は自分（後書き）

長編にするつもりですがはたしてどこまでつづくのか
作者自身見物です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9696o/>

へみちーちー

2010年12月10日20時00分発行